

(1)第 14 回マンモグラフィ読影指導者研修会報告

(2)第 36 回マンモグラフィ読影講習会報告

(3)精中機構からの重要なお知らせ

岡山済生会総合病院放射線科 石原節子

(1)2016 年 5 月 14・15 日に名古屋医療センターで第 14 回マンモグラフィ読影指導者研修会が行われました。

この研修会は、NPO 法人日本乳癌検診精度管理中央機構が行うもので、対象はマンモグラフィ読影講習会の講師経験者です。

メニューは乳癌検診の動向についての講演や、講習会についてのアンケート結果報告、デジタルマンモグラフィについてのアンケート結果報告などの例年のものに加え、今回は比較読影についてのアンケート結果報告があり、さらにメインとして 100 例 2 時間の試験をタブレット端末によるモニタ読影と、従来のフィルム読影の 2 グループに分けて行い比較、また意見や感想をいただきました。

丸 1 日のコースを 2 回行いましたが、今回 2 日間で 410 名の参加がありました。

SBP 所属の先生の姿も何人かお見かけしました。

今回目玉企画のタブレット端末による読影は、パナソニック社の 4K タブレット 2 面を用いて、ただし画面に触れずにマウス操作で行いました。

左右対称表示、左右同期して拡大・縮小、濃度・コントラストの調整などマンモグラフィ読影の基本的な操作が可能なソフトが搭載されたものを 50 セット準備しました。

(注意:試験には用いますが、輝度が高精細モニタには及ばないので、診断用にはなりません。)

ごく淡い石灰化が見えにくいという意見があり、またフィルム読影より時間がかかるなどの欠点もありましたが、今後の試験方法について参加者に聞いたところ、モニタによる試験に移行するのが良い、あるいはやむを得ないという意見が大半を占めていました。

現時点では高精細モニタを多数そろえるのは現実的でないことから、4K タブレット端末による試験に移行する予定です。

(2)10 月 1 日、2 日第 36 回マンモグラフィ読影講習会が名古屋にて行われました。タブレットを用いた初の正式の講習会です。もう一つの会場で同時並行でフィルムでも行われました。

実は、タブレットでの見え方に合わせた正解の変更や、フィルム、タブレットどちらの試

験にも使える症例への変更など、膨大な作業が講習会までになされています。
そして講習会当日、フィルムと違って不具合を起こす可能性のある機器を用いるわけですが、混乱もなく無事に終えることができました。
ただし、講義や講習のやり方を変えるなど、工夫の結果が出たものと思われます。
タブレットの使い方一つにしても練習が必要です。
今後更新講習会などに用いる場合、操作に習熟しないで試験を受けなくてはならなくなる恐れがあり、対策が重要です。

(3)今回、重要なお知らせが精中機構からありました。

もうすぐ HP に発表される予定ですが、広く周知徹底を図るため、ここでもお知らせします。

① 試験の採点方法の変更

特異度向上のため、感度の計算は今まで通り乳房単位ですが、特異度の計算は症例単位で行うことに理事会で決定しました。このため、講習会に正常を正常として落とすための講習を加えることになっています。

来年4月から始める予定です。

② タブレットによる講習会や試験について

今後徐々にタブレットに移行しますが、すべてを一律にするわけではありません。できるだけタブレットで行うことが望ましいですが、フィルムで行いたい場合はできます。

③ 講師経験者の更新について

現在は講習会講師を経験すれば更新できますが、来年からは、さらに指導者研修会への参加が必須になります。